

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第665号 2025年7月13日

鈴木真主任司祭主日ミサ説教

2025年4月6日 四旬節第5主日 C年
ヨハネ福音書 8章1～11節

「姦通の女」…先週は「放蕩息子のたとえ」の箇所でしたが、わたしには同じメッセージが心に響きました。「神はゆるしておられるのに、人はゆるせない」「ゆるす」どころか、イエスは「わたしもあなたを罪に定めない」と言われているので、神さまはそもそも「裁かない」方であることが提示されている、と言えます。

自分もしばしばそうだと感じてしまいますが、わたしたちは「失敗」した人をどうしてもゆるせないところがあります。自分が失敗するだけならまだしも、誰かを傷つけた人をなかなかゆるすことはできない。でも考えてみれば、自分だっていつも誰かを傷つけているだろうし、しかも、そのことに気付いていない場合も少なくないはずです。神さまは常に「今、とこれから」を見られる方です。逆に言えば「今まで」は問題にされない。でも人間は、いつまでも「今まで」にこだわってしまいます。

自分も常に罪をおかしているし、失敗しているし、いつも誰かを傷つけてしまっている。そのようなわたしたちを裁かず丸ごと愛してくださる神さまの愛に立ち帰り、わたしたちのうちに「ゆるし」を実現させてくださいますよう、共に祈りたいと思います。

2025年4月27日 復活節第2主日 C年
ヨハネ福音書 20章19～31節

「見ないのに信じる人は幸い」…イエスの時代には勿論のこと、わたしが司祭になった33年前とも、この言葉の持つ意味が大きく変わったように思います。なぜなら、今やスマホさえあれば世界中のあらゆるものが「見られてしまう」からです。しかし、その「見られる」すべてのことが本当かどうかはわからない…。

先日「ローマ教皇死去」のニュースが入ってきた時、「ホントか？フェイクじゃ？」と、それをさらにスマホで検索している自分がいました…。あまりに「見られる」ものが多すぎて、自分の中でそれがとても処理しきれない…そのような時代にわたしたちは生きているのでしょうか。

そこで思い出したのが、コロナ禍のときのことで、人と人とが実際に会えなくなって、会議はすべてオンラインで、という時期がありました（わたしは、いまだにこのオンライン会議が苦手なのですが…）。そのような中、インターネット世代であるはずの若者たちが、その状況に音を上げました。「もうオンラインは嫌だ、実際に会いたい」インターネット世代だからこそ、本当に大切なことは会って話さないと伝わらない…と強く感じたのでしょうか。

「信じる」という日本語は、自分の意志で決断する、というニュアンスが強いですが、聖書の言う「信じる」は、むしろ「感じる・気付く」という意味が強い言葉です。なぜなら、常に神さまが先にはたらか

れているのだから。「見ないで信じる人は幸い」…これを現代風に解釈するなら、「触れる」ことで感じる、ということでしょうか。

目に入るものではなく、大切なことをいつも「感じる」ことができるよう、祈りたいと思います。

堅信式と新受堅者祝賀会開催

6月8日（日）11時30分ミサの中で、ラファエル梅村昌弘司教による堅信式（堅信の儀）が執り行われ、日本人7人、外国籍8人がお恵みをいただき、聖堂の多くの信徒に祝福されました。

梅村司教は説教の中で「イエスの愛に出会ってこそ真の信仰に導かれます。神の愛は無償の愛であり、無条件にすべての人に注がれます。このことを心にとめてください。きょうは『聖霊降臨の主日』ですが、15人の方々が新たに聖霊の注ぎを受け、福音宣教に派遣されて行きます。受堅者の皆さんに豊かな聖霊の注ぎがありますように、心を合わせて祈りましょう」と話されました。

祭儀後に教会ホールで祝賀会が開催され、新受堅者の自己紹介があり、教会から記念品（壁などに掛ける十字架）が手渡されました。会場にはロザリオ会の方々により食事と飲み物が用意され、多くの信徒が参加し、盛大にお祝いしました。司教館からは、梅村司教と教区副事務局長の牧山善彦師が参加されました。

なお、山手教会信徒でシスターになられたマリアの宣教者フランシスコ修道会の青木青子さんが台湾から20年ぶりに日本に戻られ、堅信式と祝賀会に参加されました。

受堅者は次の方々です。

敬称略・順不同

氏名	霊名
浦岡貴大	洗礼者ヨハネ
荻原 夢依奈	マリア・ソフィア
佐久間 美玖	イグナチア・ロヨラ
高田二叶	マリア・エリザベト
長沼花恋	ラファエル・ネミール・カレン・アグネス
宮代寧々	セシリア
山岡 こと葉	ラファエラ

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| Florencia Monica Espejo Miura | Monica |
| Miguel Anrei Anday Gonzales | Michael |
| Jennifer M.Fabricante | Catherine |
| Erika Brunette Chen | Sophie |
| Faustine Evangelista | Faustine |
| Platon Cean Marie | Teresa |
| Kris Dianne Esquivel Perez | Divina Pastora |
| 鄭 盛允 | シモン |



受堅者も司教・司祭とともに入堂



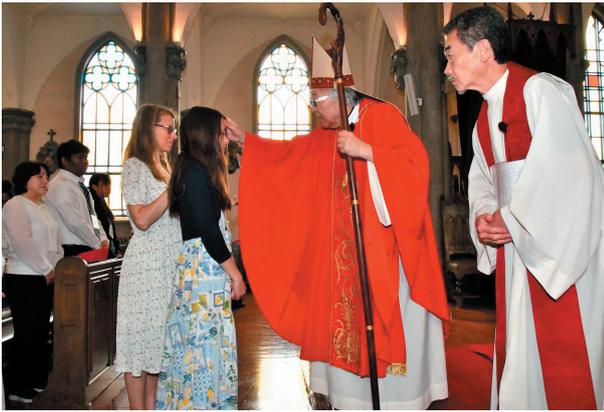
司教による洗礼の約束の更新



按手



塗油



塗油



塗油



受堅者代表による奉納



感謝の祭儀



梅村司教・司祭の方々とともに(教会全景)



梅村司教・司祭の方々とともに



乾杯



シスター青木と談笑する梅村司教

(編集部 土方芳人)

ICC初聖体 2025年6月22日

今年は少人数で初聖体式を行いました。3人でした。女の子2人(アメリカと香港)と男の子1人(アルゼンチン)。結婚式のように、中央通路には白い百合の花が飾られていました。

その日の典礼の色は白でしたので、神父さんと初聖体の子どもたちと周りが全て綺麗に白でそろってました。司祭はドミニック神父でした。ダリル神父がフィリピンへ帰った後に、引き継ぎの司牧担当が決められなかったので、5人の司祭が交代で英語のミサをささげています。ドミニック神父はバングラデシュ出身で、山手教会でミサをささげるのは、たったの2回目でした。あまり練習ができませんでした。式は円滑に進んで、子どもたちとその家族にとり忘れられない良い思い出ができました。

ICCは、いつも6月中に初聖体を行います。西洋式学期の終わりだからです。それから夏休みに入って、8月の終わりに新学期が始まります。ICCの教学も同じスケジュールで動いています。第1と第4日曜日の9時30分ミサの前に、先生たちは子どもたちを司祭・信徒館に集めて宗教の基礎を教えています。5～6クラスがあり、その中に初聖体のクラスがあります。長く教学の責任者をされていたフィリピンのラレンさんは、今度の学期にインドのカレンさんにバトンタッチします。この大事な奉仕の役割は続きます。

※ピエールさんには、日本語で原稿をいただきました。



白いユリの花で飾られた聖堂

聖なるロウソクを持って



ドミニック神父とともに



笑顔がはじけました

(ICC代表 Pierre SEVAISTRE)

新受洗者、転入者、改宗者歓迎会開催

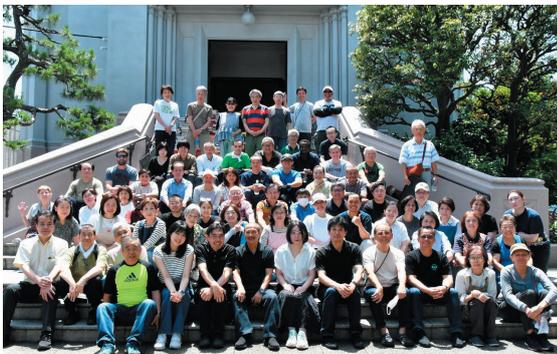
6月22日(日)午後1時から新受洗者、転入者、改宗者歓迎会が教会ホールで行われました。対象者は今年の復活徹夜祭で洗礼を受けた方、プロテスタントから改宗された方、この1年の間に他のカトリック教会から山手教会に転籍された方などで、当日は40人以上が参加されました。

初めに司会の総務から会の趣旨説明があり、教会委員長挨拶、主任司祭の挨拶と続きました。本編の各委員会の説明は、財務から始まり、教会の財政は信徒の献金が主な収入源であること、特に信者による月定献金の重要性と具体的な月定献金の割合の目安(収入の1%から3%)が説明されました。生活を犠牲にしてまで無理をする必要はないが、一応献金は信者の義務であるということも補足されました。続いてヨゼフ会とロザリオ会から説明があり、それぞれ成人男性と成人女性からなる会であること、主な活動内容は各教会行事に合わせた奉仕と、独自には黙想会、巡礼旅行、学びなどを行っていることなどが説明され、一緒に活動しましょうと呼びかけられました。典礼委員会からはミサを中心とす

る各祭儀の信徒側の奉仕の取りまとめを行っていることが説明され、特に新受洗者には朗読や聖歌隊など比較的始めやすい奉仕があるとの紹介とともに、まずは会衆としてミサに慣れてくださいとの勧めがありました。福祉委員会からは福祉関係で働いている人だけが対象ではないのでどなたでも関心があれば一緒に活動しましょうとの呼びかけとともに、具体的には近隣の福祉団体と教会の皆さんをつなぐ役割をしていることや、月に一度、教会ホールでミニカフェを開いてミサに来た信者同士の交流の場を提供していること、また今年からは教会に来ることが難しくなった高齢の方々とつながりなども活動範囲に入ったことが紹介されました。最後に教学から、洗礼を受けたばかりの方のためのフォローアップ講座や、今年から始められているフォローアップのための各種スケジュールの説明があり、どんな形でも良いから教会とつながってくださいとの勧めがあり、午後2時頃に会は終わりました。

(教会委員会 委員長 小倉 謙)

教会大掃除



一つになり喜びに溢れた顔・顔・顔

最近猛暑が常態化していますが、8月に実施していた教会大掃除を今年は時期を早め、6月7日(土)9時から各組織の信徒が協力して聖堂や教会ホールで実施しました。

参加者は、小倉謙教会委員会委員長、ピエールICC(国際コミュニティー委員会)代表などでした。今年もICCから多くのメンバーが参加され、聖堂の重たい会衆席の移動では大変助かりました。信徒の高齢化が進む日本人に対し、外国から日本に働きに来て

いる男性は、ほとんどが働き盛りの若い世代です。

日本人の参加者は年々減少傾向にあります。恒例行事だった正月の餅つき大会や秋のバザーが諸般の事情により実施できなくなり、外国籍の方々と交流する機会が少なくなっていますが、この大掃除は外国籍の方々と親しくなる大きなチャンスでもありますので、今後ともご協力をよろしくお願い致します。

昼食は、ロザリオ会の方々が料理された心のこもったカレーライスをいただきました。とてもおいしかったです。

「神の家」の大掃除に参加された皆さま、お疲れさまでした。



キリスト像も綺麗に



祈祷書などを外へ運ぶ



重たい会衆席を運ぶ



交流の場となる昼食会場

(編集部 土方芳人)

ロザリオ会巡礼旅行に参加して



神田教会で鈴木真師とともに

聖母月である5月、晴天に恵まれ鈴木真主任司祭のご指導のもと、ロザリオ会32人（総勢33人）で聖年の巡礼指定教会を2つ訪問しました。

最初に訪問したのは、都内有数の歴史のある神田教会です。山手教会と同じように関東大震災での崩壊を乗り越え現在の地に建堂されています。聖堂に入ると、まず色鮮やかなステンドグラスの数々に心を奪われます。そこに彩られた神田教会の歴史を拝見しながら正面の祭壇に向かうと大きな天使像に守られた立派な祭壇があり、その右側には聖フランシスコ・ザビエルの聖遺骨が収められた祭壇がありました。外観の重厚なたたずまいに対して、内部のきらびやかでありながらも荘厳な面持ちに神様との対話に心弾ませずにはいられない喜びを感じました。ミサにも参加し、美しい神田教会に名残を惜しみながら次の巡礼地へと向かいます。

昼食を挟み調布教会を訪問しました。サレジオ会神学院があり、尊者チマッティ神父様のお御堂があり、聖骸布への崇敬のある教会です。聖ヨハネ・ボスコが守護聖人です。幕屋をイメージした聖堂で

は、山野内主任司祭のお話が心に残りました。「皆さんは何を連れてこの巡礼にやってきましたか？」イエス様を連れて訪問し、その教会の聖堂を神様の愛で満たす。そして、次の巡礼者へその愛を残していく。私たちは前の巡礼者の愛を連れて山手教会に戻る。「巡礼とは神様の愛の伝達です」改めて巡礼の意味を理解し、この巡礼に参加できたことに心から感謝しました。巡礼コースを調布教会の信徒の皆さんが心を尽くして案内してくださり、皆笑顔で帰路に着くことができました。

(ロザリオ会 井上 恵理子)

2025年6月度教会委員会議事要約

日時：2025年6月1日(日) 午後1時～3時10分

場所：司祭・信徒館1階「松・竹」

議事内容（議事進行：小倉委員長）

1 主な審議確認検討事案

※順不同

(1) 司祭・信徒館の換気扇について

- 換気扇が老朽化により音がうるさいので修理の見積もりを取得。換気扇の老朽化を踏まえ全体を改修したい。
- 今後、司祭・信徒館の外壁やエレベータの更新などが必要であり、放置することで、さらに費用がかかることが考えられることから必要なメンテナンスとして着手したい。

【決定事項】

- ・換気扇の改修について承認する。
- #### (2) 「カトリック ジャパン ダイジェスト」送付部数について
- 送付部数はミサの平均参加人数の4分の1となっており、各ミサで分けて配布している。カトリック中央協議会からこの部数についてのアンケートが来ている。部数を増やしてもらうなど要望するか。

【決定事項】

- ・現状のままとする。
- #### (3) ポルトガルからの訪問について
- 8月2日(土)にポルトガルから30人ほどが訪問したいという問い合わせがあり、同日の午後6時からミサを行いたいとの希望があった。
 - 午後5時のミサおよび午後7時のミサへの影響、同日箱根を観光してからの来訪ということ

で、希望の時間への対応は難しいと考える。

【決定事項】

- ・午後5時もしくは午後7時のミサに参加していただくか、他の教会を訪問していただくよう回答する。
- (4) 聖堂コンサート前のワンコインランチについて
 - 6月29日（日）の11時30分のミサの後、コンサート（午後2時より）の前までにワンコインランチを用意したい。

【決定事項】

- ・承認する。
- (5) 巡礼時の接待のお茶代について
 - 巡礼で来られる方へのお茶などをお出ししていたので、この代金を教会の経費として落としてよろしいか。

【決定事項】

- ・教会の経費で行うこと。教会の行事での経費については教会が費用負担することが大前提である。
- (6) 教会ホールでのお泊まり会について
 - ボーイスカウトで7月26日（土）から教会ホールで1泊のお泊まり会を行いたい。

【決定事項】

- ・承認する。
- (7) 司祭・信徒館プロジェクター設置について
 - 設置機材などを精査し、新たな見積もりを取得。

【決定事項】

- ・承認する。

2 今後の活動、報告事項

【堅信式とパーティについて】

- 受堅予定者は15人。
- ミサ後に写真撮影とお祝いのパーティを行う。
- コーヒーソーシャルは正午頃までに終わっていただき、午後1時前後にはパーティを始めたい。終わりは午後2時半頃。立食形式で8テーブル用意する。

【新受洗者・転入者・改宗者歓迎会について】

- 6月22日（日）内容は昨年、一昨年と同様。参加人数は確認中（返信締切6月8日）

【教会学校より】

- 7月27日（日）ICCのサンデースクールと合同でサマースクールを行う。
- 11時半ミサに子どもたちが参加する。教会ホールで人数が分かり次第、昼食を手配する。

【事務所より】

- 清泉女学院の来訪について。10月3日（金）に清泉女学院の高校1年生の生徒174人と先生が訪問予定。例年12月だったのが今年は10月になったもの。
- 第57回横浜地区一粒会大会についてのお知らせが来ている。10月13日（月・祝）箱根の函嶺百合学園で行う。
- 教会の戸締り・門の開閉について。平日は9時半に開け、帰る時に閉める。日曜日と火曜日の朝は朝ミサ当番が開ける。数名の担当者で回しているが都合が合わない場合の連絡、対応者など体制を整えたい。
- 巡礼訪問について。5月22日、23日に巡礼に来られた団体からは、電話とメールで丁寧な感謝のメッセージがあった。

【典礼委員会より】

- イエスのみ心の祭日は、6月27日（金）10時半よりミサ。
- 第3地区祈る力を育てる部門は、5月18日（日）に実施された。自分の言葉で祈ること、人を赦す祈りにチャレンジするなどについて意見を交換。

【ICCより】

- ダリル師が離任後、多くの方からのサポートもあり、4人の神父様が協力くださりミサができています。

【教学より】

- 5月18日（日）にフォローアップの会でミニロザリオ作りを行い、40人以上が参加しキャンセル待ちも出る状況であった。新受洗者が15人以上含まれている。とても喜ばれたので定期的に開催したい。

3 主任司祭から

- 6月14日（土）サポートチーム神奈川の三者交流会を中原教会で行う。
- 8月1日（金）鈴木師不在につきロザリオ会主催のミサは、お休みとする。
- コンビーニ・ディ・コリスタの演奏会を来年4月19日（日）に行う。
- 9月5日（金）～6日（土）で横浜教区カトリック学生連盟の夏合宿を司祭・信徒館で行う。

4 次回教会委員会

2025年6月29日（日）午後1時～3時終了予定。

（総務担当 宮 裕一）

2025年7月・8月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

	主 日	聖 歌			聖歌隊	時 間	奉 仕 者				備考
		答唱詩編	アレルヤ唱	ミサ曲			オルガン	先 唱	聖書朗読		
7月13日	年間第15主日	典115 ①④⑥	典269 年間15C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	村 松	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
						7:30	中 川	二 宮	田口(利)	神近(千)	
						11:30	太 田	子どもとともに、ささげるミサ			
20日	年間第16主日	典101 ①②	典272 年間16C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	手 塚	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
						7:30	渡 邊	末 澤	稲葉(千)	間部(侑)	
						* 11:30	米 沢	小 山	大島(寛)	上瀧(聡)	
27日	年間第17主日	典134 ①②③	典269 年間17C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	忠 海	宮	工藤(元)	島田(節)	
						7:30	太 田	亀 井	東海林(正)	津久井(暁)	
						* 11:30	中 川	小 倉	佐伯(奈)	木原(真)	
8月3日	年間第18主日	典35 ①③④	典272 年間18C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	太 田	竹之内	新井田	阿部(眞)	
						7:30	渡 邊	石 賀	古谷(信)	二宮(正)	
						* 11:30	中 川	山本(紀)	高橋(佳)	寺本(宏)	
10日	年間第19主日	典46 ③④⑤	典269 年間19C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	太 田	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
						7:30	小 嶋	二 宮	大濱(学)	大濱(美)	
						* 11:30	佐 藤	遠 藤	佐藤(日)	穴澤(千)	
15日	聖母の被昇天	典36 ②④	典276 聖母被昇天	ミサ曲A 典605~9		* 10:30	太 田	柳 川	清水(美)	武田(登)	
17日	年間第20主日	典54 ①④	典272 年間20C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	村 松	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
						7:30	渡 邊	末 澤	官野(さ)	仁井田	
						* 11:30	手 塚	小 山	中山(峯)	上田(敏)	
24日	年間第21主日	典132 ①②	典269 年間21C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	忠 海	宮	工藤(元)	島田(節)	
						7:30	手 束	亀 井	秋山(政)	山本(真)	
						11:30	手 塚	小 倉	室崎(理)	上瀧(聡)	
31日	年間第22主日	典34 ①②④	典272 年間22C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	村 松	柳 川	工藤(元)	櫻井(智)	
						7:30	中 川	時 久	梅田(啓)	稲葉(千)	
						11:30	太 田	村田(義)	小松(美)	荻原(恵)	

編 集 後 記

5月下旬、大阪万博と「細川ガラシャゆかりの地を訪ねる」というテーマで旅に出ました。万博は、強運の友人のおかげでイタリア館を堪能できました。翌日訪れた大阪玉造教会は、ガラシャの夫細川忠興の屋敷跡にほど近い場所にあります。バチカン美術館に保管されている岡山聖虚の作品「日本二十六聖人画」のレプリカが掛け軸仕様で26幅展示中でした。現在は修復作業を終えた「聖フランシスコ吉」と「聖ディエゴ喜斎」の2枚、つまり原物が94年ぶりに里帰りし、当教会で見られます。ミサに参加したのちに京都丹後の宮津教会を訪ね、日本三景の一つ天橋立も満喫。最終日は、ガラシャの父明智光秀が治めた町にある福知山教会を訪問。教会統合により、この小聖堂に設置されることになった元綾部教会の不思議な祭壇を見ました。リメイクのための解体作業中に聖杯のレリーフから水があふれ出たそうです。その後は、ガラシャとは直接関係ありませんが、京都市内の河原町教会と滋賀県大津教会を訪ねました。かつて琵琶湖のほとりにはガラシャが娘時代を過ごした坂本城がありました。彼女は戦国時代に生きたキリスト者。切に安寧を願い、祈ったことでしょう。ガラシャゆかりの教会を巡る旅の終わりに訪れた琵琶湖。湖畔にたたずみ、私たちも世界平和を祈りました。

(竹之内 弘美)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。